時 評



土を耕し、心を培う実学教育

―「共感」と「課題解決」で目指す大学教育の未来 ―

大阪人間科学大学 学長 植 田 剛 司

■ 原体験から芽生えた「人にやさしくありたい」という原点

私の学長として大学の運営に携わるまでの歩みは、少々異色かもしれません。元々は大阪府庁の行政マンとして、福祉や医療、農業など多様な現場で社会課題に向き合ってまいりました。その根底には、私自身の幼少期の原体験があります。小学 2 年生の時に父が経営するスーパーマーケットが倒産し、家族で 1 本の牛乳を水で薄めて分け合うほどの貧困生活に陥りました。そのことが原因で周囲のいじめに直面したつらい記憶は、「どんな時も弱い人の立場に立ちたい」「人にやさしくありたい」という強い思いを私の心に刻み込むこととなりました。

大阪府庁在職時に障がい者支援や農業振興に携わる中で、農業を通じて障がい者の社会参画を目指す「農福連携」の可能性に着目しました。56 歳で京都大学大学院農学研究科博士後期課程に入学して「農福連携研究」を深め、退職後は NPO 法人「ディーセント・ファームかしわら」を設立し、障がいのある方も誰もが土に親しめる「ユニバーサル農園」を運営してきました。引きこもりや精神的な困難を抱える方々が、体験農園の作業を通じて、人と関わりを持ち、「ありがとう」と感謝されることで、少しずつ自信を取り戻していくのを目の当たりにしてまいりました。この「土を耕し、実りを分かち合う中で人が本来の成長する力をつけて行く」という実感は、現在の大学における人間教育や大学運営のあり方にも深く通底する私の大切な原点となっています。

■ 現場主義の学長像と「成長度日本一」へ挑む大学改革

令和 7（2025）年 4 月に本学の学長に就任して以来、私が何よりも大切にしているのは「現場主義」です。学長室に留まるのではなく、キャンパスを歩き回って学生と触れ合い、学食で共にランチを食べたり、講義やボランティア活動にも同行しています。災害訓練での炊き出しや精神障害者の支援団体が主催するバザーなどの現場で、学生たちの素直でひたむきな熱量に触れることは、学長としての大きな糧となっています。本年 12 月には新たに迎えた留学生との全学的な交流を深めるため、「学長杯フットサル大会」を開催することとしています。

本年度、本学の母体である薫英学園は創立 95 周年、大阪人間科学大学は開学 25 周年という大きな節目を迎えました。平成 13（2001）年度の開学以来、建学の精神である「敬・信・愛」を基に「自立と共生の心を培う人間教育」を教育理念に掲げ、社会のニーズに応える国家資格に強い、医療・福祉、教育・保育、心理などの専門大学として「対人援助の専門職業人」の育

成に力を入れ、多くの人材を輩出してきました。

現在、「人間科学部」、「心理学部」、「保健医療学部」の 3 学部 8 学科 1 研究科体制として、「チーム支援」をリードする「人と社会を支えるプロフェッショナルを育てる大学」へとさらなる進化を遂げ、学科の垣根を超えた学際的な学びを実践しています。

また、令和 5（2023）年度に長期ビジョン「大阪人間科学大学ビジョン 2040」を策定し、2040（令和 22）年までに達成する目標として、「人と社会を支えるプロフェッショナルを目指す、学生一人ひとりの夢や志を確かな形にするイノベーティブな『実学教育』を推し進め、『学生の成長度日本一の大学を目指す』」ことを掲げたところです。

■ 社会課題に向き合う PBL と確かな実績

教育の実践において特に注力しているのが、社会のリアルな課題に飛び込む課題解決型学習（PBL）です。本年度からは、摂南大学とともにユニバーサル・スタジオ・ジャパン（USJ）及び大阪府と連携した公民連携プロジェクトを開始しました。重度な障がい者の「体験格差」に焦点を当て、最も社会アクセスが困難とされる医療的ケア児がアミューズメント施設を楽しめるよう、学生たちが主体となって、USJ や事業所での現状把握や改善策の検討に取り組んでいます。農園での実践がそうであったように、実際の社会課題に向き合い、誰かの笑顔のために知恵を絞る体験こそが、人の心を動かし、自発的な学びへの力強い原動力となると信じています。

こうした教育プログラムを通じた学生たちの挑戦は、極めて明確な成果となって表れています。直近の国家試験においては、社会福祉士、精神保健福祉士、介護福祉士、視能訓練士、作業療法士、言語聴覚士の国家試験において「合格率 100％」という快挙を達成いたしました。これは「成長に、本気。」というスローガンのもと、学生たちが互いに切磋琢磨し、教職員が一丸となって寄り添い続けた成果であり、本学の誇りです。

■ 実学教育が紡ぐ「人にやさしい未来」

18 歳人口の減少や社会構造の変化など、私学経営を取り巻く環境は厳しい局面を迎えています。しかし、だからこそ私たちが提供すべきは、単なる知識の授与にとどまらない「人間としての成長」と「実践的な社会還元力」であると確信しております。

「どんな時も弱い人の立場に立って行動することができる人に」。

自らの原体験と農福連携の現場で培った温かな真心、そして大学における高度な実学教育を融合させ、これからも時代や社会から真に求められる人材を世に送り出し続ける所存です。全国で私学を支える皆様とともに、教育の可能性を信じ、豊かな社会の未来を切り拓いていけることを心より願っております。

